



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

将来のかたち見据え、決断、実行へ



仕事始めの1月4日(水)午後4時から、附属滝井病院6階大講堂において「新年賀詞交換会」が開催され、山下敏夫理事長・学長は年頭所感で新年の抱負や本学の将来ビジョンなどについて話し「現実をしっかりと見ながら、将来の本学のかたちを見据え、決断し、実行していく」と固い決意を述べました。

理事長・学長の年頭所感は枚方、香里の両病院にも同時中継され、本学の理念が教職員に共有されました。

2～5頁に理事長・学長年頭所感

CONTENTS

法人	年頭所感	2	病院	12
	学部、附属3病院で賀詞交換会	6	卒後臨床研修センター	14
	第8回医療安全大会	6	附属看護専門学校	14
大学	医師国家試験激励会	10	同窓会	15
	戦略的大学連携支援事業	11	メディア情報	16
図書館	文献検索の研修会	12	お知らせ	16

法 人

学部、附属3病院で賀詞交換会開催

山下理事長・学長の年頭所感に続いて開かれた賀詞交換会では、徳永力雄常務理事が「幸いにも私たちには夢と希望をのせた大きな目標があり、着々と前進しています。目標達成に向けて頑張りましょう」と熱い口調で挨拶しました。この後、各部署でも賀詞交換会が開催され、ささやかながらお茶で乾杯し、新年を祝いました。

学部は専門部学舎1号館5階大会議室で開催し、伊藤誠二副学長が「『一年の計は元旦にあり』」といます。目標を立てて有言実行し、来年4月の新学舎移転に向かって周到な準備をしましょう」と呼び掛けました。

附属枚方病院は13階合同カンファレンスルームで行

いました。今村洋二病院長は「滝井病院の高度救命救急センターを枚方病院に移し救急医療の充実を図りたい。そして、チーム枚方として、挨拶を通してコミュニケーションを活発化したい」と抱負を述べました。

附属滝井病院は6階大講堂が会場で、岩坂壽二病院長は「今日は皆さんが笑顔で1年を終えるための出発の日。素晴らしい年にしましょう」と力を込めて挨拶しました。

香里病院は8階会議室で実施し、高山康夫病院長より「職員一同の協力の基に、最近では入院・外来とも患者数が概ね計画値に達しているため、今年は香里病院の更なる飛躍の年になるよう協力いただきたい」との力強い挨拶がありました。



抱負を述べる今村病院長(左から2人目)



力強く挨拶する岩坂病院長(右端)



高山病院長(左端)の乾杯発声で意気込む教職員ら

医療安全に向けて意識向上 第8回医療安全大会開催

11月29日(火)午後5時30分から枚方、滝井、香里の附属3病院を中継して「第8回医療安全大会」が開催されました。医療安全管理センターが主催し、教職員ら計428名が参加しました。

司会は神崎秀陽医療安全管理センター長が務めました。冒頭の今村洋二附属枚方病院長の挨拶の後、山下敏夫理事長・学長が「事故を起こさないためには日々、緊張感を持つトレーニングが大切。この大会で得た知識と知恵を明日から活かし、本学の医療の向上につなげてください」と述べました。続いて、各病院を代表して5名が医療事故防止に向けた取り組みや対策などについて発表し、参加者は医療安全への意識を高めていました。最後は岩坂壽二附属滝井病院長の挨拶で閉会となりました。



司会進行する神崎センター長

第2回関西医科大学地域医療連携フォーラム開催



活発に質疑応答が繰り広げられたフォーラム

12月3日(土)午後4時から守口ロイヤルパインズホテルにおいて、「第2回関西医科大学地域医療連携フォーラム」が開催され、地域の医療関係者17名が参加しました。このフォーラムは本学教員と地域の医療関係者の交流等が目的で、附属滝井病院の高田秀穂副病院長が座長を務め「こんな時どうするの?」をテーマに講演と情報交換会が行われました。

講演では同病院精神神経科の吉村匡史講師が「認知症かな? 一気づきのポイントと診断治療」、同病院神経内科の朝山真哉助教が「こんな時どうするの? 一急を要する神経症状」とそれぞれ題して講演し、活発な質疑応答も行われました。この後の情報交換会では参加者と本学教員が交流を深めました。

法人

新学舎のポイント紹介〈9～13階〉

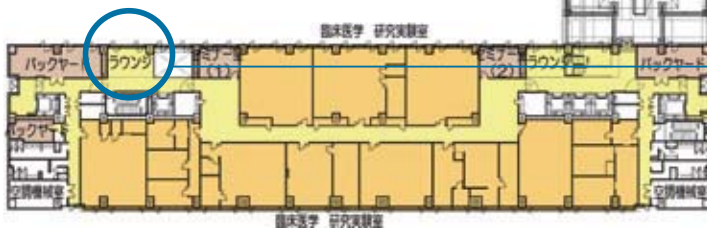


前号までに1～8階について掲載しました。今号は高層棟の9～13階のポイントを紹介します。

9階概要

9階から上の階は高層棟のみとなります。5～8階と同様、臨床医学研究実験室やセミナー室が配備されます。また、上下階が吹抜けのラウンジスペースも設けられます。

9階フロアマップ



◆ラウンジ

上階から淀川の景色が楽しめるラウンジスペースです。休憩や情報交換の場です。



ラウンジのイメージ図

10～12階概要

10～12階は基礎社会医学の居室と研究実験室が設置されるほか、これらの階にも吹抜けのラウンジスペースが設けられ、臨床系と基礎系の講座間の活発な交流が繰り返されます。また「グリーン&エコ」のコンセプトで採光にも留意しています。



12階フロアマップ

13階概要

最上階となる13階は理事長室、学長室、法人役員室などが並ぶほか、同窓会の応接室、会議室、事務室がそれぞれ配置されます。また、天井から陽光が差し込む明るい空間です。

法人

寄付金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成23年11月1日から平成23年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

なお、募集当初から平成23年12月31日までの寄付金累計額は4億5,837万1千円です。

**枚方キャンパス統合移転整備事業募金募集中！**

本学では新学舎建設資金として「枚方キャンパス統合移転整備事業募金」を募集しています。新学舎は平成23年6月に着工、平成25年1月竣工の予定です。本学の関係者や支援者の皆様、将来に向けた新学舎の建設のためにご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

詳細は9ページをご覧ください。

法人

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

2. 募集金額

1口10万円・申込口数1口以上 できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申込みください。寄付申込書は下記の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

- ・個人の場合：特定公益増進法人申込書
- ・法人の場合：
 - (1) 特定公益増進法人申込書
 - (2) 受配者指定寄付金申込書

4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局(大学事務局募金室)
〒570-8506
大阪府守口市文園町10番15号
TEL：06-6993-9556(直通)FAX：06-6993-5221
E-mail：bokin@takii.kmu.ac.jp
URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

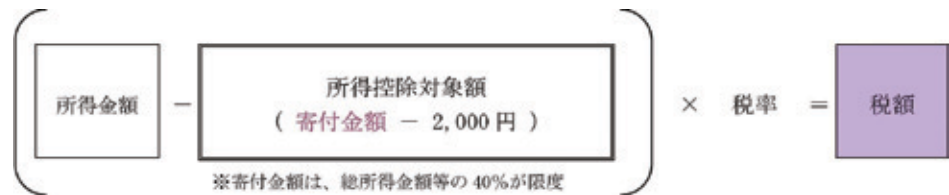
個人からの寄付金に係る減税措置のご案内

今年から新たに「税額控除制度」が導入されました！

平成23年度税制改正により、所得税の寄付金控除制度に、これまでの「(A)所得控除制度」に加え「(B)税額控除制度」が導入されました。確定申告の際にどちらか一方の制度を選択して手続を行えば、税の還付を受けられます。

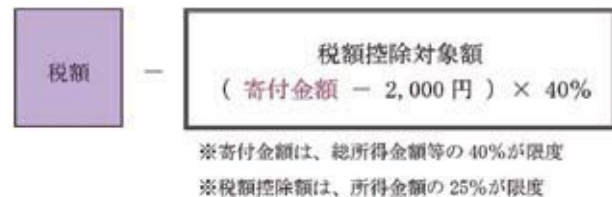
(A) 所得控除

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方が、減税効果が高くなります。



(B) 税額控除

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。



平成23年1月1日～12月31日までにご寄付いただきました方(個人)へ

1月中に、本学募金室から所得税減税手続についての詳しいご案内を郵送いたしますので、確定申告期間に所管税務署で確定申告をしてください。

※大阪市に住所を有する方は、大阪市の条例により翌年分の個人市民税税額控除の適用も受けられます。

※法人でのご寄付にも税制上の優遇措置があります。受配者指定寄付金制度を利用すれば**寄付金全額が損金に算入**されます。

減税手続についてのお問い合わせは、大学事務局募金室まで。TEL 06-6993-9556

大 学

平成25年度入試からセンター試験導入 新たに東京会場も設置

平成25年度から、従来の推薦入学試験・一般入学試験に加えて、新たに大学入試センター試験利用の試験方式を新設します。また、一般入学試験第1次試験についても、大阪会場のほか、新たに東京会場を設けます。

※詳細については、平成25年度入試募集要項(平成24年7月頃発行予定)をご確認ください。

各入試の募集人員等は下記のとおりです。

I.大学入学センター試験

- 1)募集人員：約15名
- 2)1次試験教科・科目： (配点)
- ①国語 「国語」(近代以降の文章のみ) 100点
- ②数学 「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」
の2科目必須 200点(各100点)
- ③理科 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2科目
選択 200点(各100点)
- ④外国語 「英語(リスニング含む)」 200点
※250点満点を200点に換算する
合計 700点

- 3)2次試験科目：面接
4)入学検定料：30,000円

II.一般入学試験

- 1)募集人員：約85名
2)募集区分：一般枠(ただし若干名特別枠を募集する
場合がある)
3)第1次試験会場：大阪・東京

III.推薦入学試験

- 1)募集人員：約10名
2)募集区分：特別枠

医師国家試験激励会開催

医師国家試験(平成24年2月11～13日)を間近に控えた11月11日(金)午後6時から、守口ロイヤルパインズホテルにおいて、本学の国試対策委員会と国試対策協議会が主催、同窓会、加多乃会、慈仁会の共催による医師国家試験激励会が開催されました。山下敏夫理事長・学長はじめ教員24名と、6学年学生ら100名が出席しました。山下理事長・学長は挨拶で「君たちのため、そして関西医科大学のために100%合格を目指そう」と力を込め、学生たちにエールを送りました。また、今回は例年とは内容を変え、医師国家試験対策予備校テコムの李権二氏を講師に迎えました。李氏は「国試直前3カ月の過ごし方」と題し、残りの期間でやるべきことやポイント、推奨する問題集の紹介などについて講演されました。

続いて懇親会が催され、学生たちは教員から励ましの声援を受けたことに加え、友人と歓談を繰り広げるなど終始リラックスしている様子で、本番に向けて英気を養いました。

試験までの過ごし方についてアドバイスを送られる李講師



懇親会では山下理事長・学長(右端)はじめ教員らが学生にエールを送りました

平成24年度推薦入学試験実施

平成24年度推薦入学試験の第一次書類選考合格者47名に対して11月20日(日)、専門部学舎において第二次選考が実施されました。11月25日(金)に合格発表があり、10名が合格しました。

大 学

立命館大学との文部科学省平成21年度採択の戦略的大学連携支援事業

「インターネット新世代と新しい日本の出発」テーマに慶應義塾大村井純教授が講演

11月5日(土)午後1時から、立命館大学BKC(びわこ・くさつキャンパス)ラルカディアR103において大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに係るシンポジウムが開催され、関西医科大学の教職員16名、立命館大学の教職員62名の計78名が参加しました。立命館大学の飯田健夫副総長の開会挨拶の後、慶應義塾大学環境情報学部学部長の村井純教授による「インターネット新世代と新しい日本の出発」と題した講演が行われました。このシンポジウムは、附属滝井病院南館2階臨床講堂へ、TV会議システムにより遠隔中継されました。

続いて、立命館大学の西尾信彦教授の司会でパネルディスカッションが行われ、パネラーの村井教授、本学の木原裕教授、渡邊淳准教授、立命館大学の長野正道教授、鈴木佑治教授、小池千恵子准教授の6名が「ライフサイエンスの現場から変革の可能性を探る」をテーマに活発な議論を交わしました。最後は本学の伊藤誠二副学長の挨拶で閉会しました。

海堂尊氏が医療と工学の融合が生み出す未来について熱弁

熱く講演する海堂氏

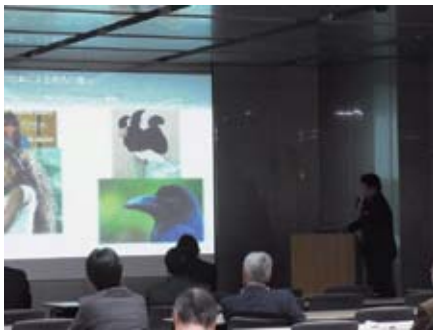


一般公開シンポジウム「未来の医療と社会」が12月17日(土)午後1時からキャンパスプラザ京都で開催され、学生、市民や医療関係者ら281名が参加しました。「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」の事業報告の後、作家海堂尊氏が基調講演で医療は患者を治すこと、医学は死から学ぶこと、死亡時画像診断(AI)の重要性、CT、MRIをはじめとする診療機器が工学の土台の上にあることなど、医師の立場から医療と工学の融合が生み出す未来について熱く語られました。

基調講演後、海堂氏に、伊藤誠二副学長、木原裕教授、立命館大学の谷口吉弘総長特別補佐、土屋友房薬学部副学部長が加わり、「未来の医療を創造するライフサイエンスへの期待」をテーマにパネルディスカッションが行われました。立命館大学の小島一男生命科学部副学部長が司会を務め、ライフサイエンスの未来とそれを担う人材育成について、会場との質疑応答を交えた活発な討議が繰り広げられました。

「10医科大学医学部合同新技術説明会」に参加

企業関係者に向けて発表する山崎助教



11月18日(金)に(独)科学技術振興機構JSTホールにおいて、10の国公立大学医学部・医科大学参加のもと、「医学部合同新技術説明会」が開催されました。本学からは、皮膚科学講座の山崎文和助教が「紫外線により色素沈着を誘導できる新しいマウスの作製」と題して発表しました。

この説明会は大学発のライセンス可能な特許(未公開出願を含む)を発明者自身が発表することで、企業関係者を対象に実用化を展望した実施企業や共同研究パートナーを募ることが目的で、山崎助教の発表に加え、本学の産学連携と知的財産の組織説明と、これまでの代表的な商品化実績を紹介したポスター展示を行いました。

第7回枚方産学公連携フォーラム

～産学公連携による医療・福祉分野への挑戦～ 開催

11月26日(土)に枚方市立地域活性化支援センター「輝きプラザ」で第7回枚方産学公連携フォーラムが開催され「枚方七企業団地連絡協議会」に加盟する企業の約100名が参加しました。竹内脩枚方市長の挨拶の後、京セラ(株)元代表取締役会長兼CEOの西口泰夫氏による「日本企業が世界市場で負け続けている要因とは」と題した基調講演が行われました。

さらに「本学の産学公連携による医療・福祉分野への挑戦」をテーマに、伊藤誠二副学長から「関西医科大学の紹介と医学・医療の進歩」、産学連携知的財産統括室の三島健顧問から「関西医科大学における産学公連携の取組」とそれぞれ題した発表がありました。さらに、共同研究事例として坂本設計技術開発研究所の坂本喜晴社長から「術前術後検討用立体造形モデル作製システムの構築とその応用」、大阪電気通信大学の吉田正樹教授による「高齢者の転倒予防装置について」の講演が行われました。



枚方産学公連携フォーラムの様子

図書館

新人看護職員対象の文献検索の研修会開催

香里病院の新人看護職員研修の一環として、附属図書館利用法および医中誌Web(日本語文献のデータベース)の説明を12月2日(金)に実施しました。香里病院への出張講義は昨年に続き2回目となります。図書館では情報リテラシー教育支援活動に重点を置いており、今後も積極的に続ける方針です。

この研修会のアンケート結果では、検索法の内容や説明に満足度が高いことが窺えるほか、医中誌Webについては、看護研究の時だけでなく日頃の学習や業務中に疑問を感じた事項調査にも活用していきたいなど、検索の重要性を認識している意見が多くみられました。



職員の説明を聞く新人看護職員たち

病院

附属3病院でクリスマスイベント開催

枚方、滝井、香里の3附属病院でクリスマスイベントが実施され、各病院において患者さんたちが楽しいひとときを過ごしました。

大阪国際滝井高校吹奏楽部が「元気」プレゼント 附属枚方病院

高校生
の演奏
に聴き
入る参
加者



12月17日(土)午後2時30分から、2階エントランスホールで、大阪国際滝井高校吹奏楽部による「院内クリスマスコンサート」(ボランティア委員会主催)が開かれました。毎年の恒例行事で、今回もホールを埋め尽くす280名の患者さんや家族の方々が集い、会場一体になってクリスマスソングを合唱するなど、参加者に「元気」がプレゼントされました。

弦楽4重奏団「ナチュレ」の音色にうっとり 附属滝井病院

12月17日(土)午後2時から、6階臨床講堂でクリスマス会が開催され、患者さんら155名が参加しました。女性のための弦楽四重奏団「ナチュレ」の皆さんによるコンサートが行われ、会場は第1バイオリン、第2バイオリン、ビオラ、チェロの美しい音色に包まれました。来場者は広く知られるクラシック音楽やクリスマスソングの演奏に目を閉じて聞き入るなど、和やかなひとときを過ごしました。



和やかな雰囲気が漂う会場

ハンドベルの音色で会場魅了 香里病院

ハンド
ベルの
美しい
音色が
会場
に響き
渡りま
した



12月3日(土)午後2時30分から2階エントランスでハンドベルによる院内コンサートが開催されました。昨年に引き続き、近隣の大阪聖母女学院中等部・高等部の皆さん総勢35名が一生懸命に熱演してくださいました。指揮の先生からはハンドベルの奏法についての詳しい説明もあり、入院・外来患者などを中心に130名が「ソリすべり」などのクリスマスソングや「くるみ割り人形」などを大いに楽しみました。

病 院

附属枚方病院

心筋梗塞や咽頭がん予防に向けた
市民公開講座開催

12月3日(土)午後2時から、附属枚方病院13階講堂で市民公開講座が開催されました。今村洋二病院長が座長を務め、内科学第2講座の神島宏准教授(循環器内科病院教授)が「狭心症や心筋梗塞のカテーテル治療—ここまで治せる!最新のテクノロジーと治療技術—」、また耳鼻咽喉科の井上敏哉講師が「喉頭がんについて」をテーマにそれぞれ講演、高齢者を中心に約150名が参加しました。どちらも動画を利用してわかりやすく解説されたほか、講演会終了後は参加者が講師に質問するなど有意義な講演会でした。



講演する神島宏准教授

子
重症患者を救出する訓練の様



秋季消防訓練を実施

11月29日(火)午後3時30分から、秋季消防訓練が実施されました。開院以来、多くの職員が訓練を経験することを目的に、毎回出火場所を変えて実施しており、今回は11S病棟が出火階で、その直上となる12階との両階を中心に行われました。参加したスタッフは真剣に取り組み、充実した訓練となりました。終了後には、地下ドライエリアにおいて、実際の廊下に設置されている屋内消火栓を使用した放水訓練が行われました。

附属滝井病院

和歌山県で大地震発生を想定 災害訓練実施

11月19日(土)午前9時45分から、附属滝井病院の各建物を会場に「第6回災害訓練」が実施されました。和歌山県潮岬内陸を震源とする地震が発生、守口市では震度6弱の地震を観測し、災害拠点病院である同院に緊急の受入れ要請があったとの想定のもと、滝井地区で勤務するスタッフのほか附属看護専門学校、守口市門真市消防組合、ECCアーティスト専門学校等の協力を得て実施され、約200名が参加しました。



緊迫した雰囲気の中、真剣に訓練に取り組むスタッフ

この日は雨で予定よりも規模を縮小して行われました。災害発生の一報の後、病院内に対策本部を設置し、訓練がスタート。救急隊員が負傷者に扮した学生の救助活動を繰り広げ、トリアージポストで重症度や緊急度に応じて振り分けた後、各ゾーン別に設置した受入れ先に搬送し、それぞれ被災者受入れ訓練を実施しました。救急車3台を動員し、負傷者役の学生はけがの特殊メイクが施されるなど、本番さながらの緊迫した雰囲気に包まれました。

発達障害児のソーシャルスキル・トレーニングについての講演会開催

12月17日(土)午前10時から、附属滝井病院南館臨床講堂で、小児科心とからだの発達支援センターによる保護者向けの講演会「発達障害児のソーシャルスキル・トレーニング—幼少期に学んでほしいこと—」が開かれ、同院かかりつけの患者さんの保護者を中心に70名が参加しました。講演では、言語聴覚士で未就園児の療育指導に携わっておられる、城陽市立ふたば園の松尾育子氏が発達障害を持つ子どもたちが小学校低学年までに身に着けておきたい集団でのルールについて、お話をされました。



講演する松尾氏

松尾氏は幼少期に学ぶべきこととして、基本的な生活習慣や「学習の構え、知識、スキル」に加え、ソーシャルスキルの重要性を強調し、集団に参加させる方法やコミュニケーションスキルの磨き方などについて、子どもがなじみやすいアイテムを使って育む方法などを紹介されました。

香里病院

平成23年度医療安全相互ラウンドを受審

12月13日(火)午後1時から4時に日本私立医科大学協会主催の第1回医療安全相互ラウンドを受審しました。評価者は近畿大学医学部奈良病院の医師、看護師、臨床検査技師、事務員の計6名でした。当日は、医療安全関係と感染対策関係に分かれ、評価表に基づくディスカッションの後、現場確認と講評がありました。相互ラウンドは感染対策と医療安全をテーマに、従来は各大学の本院同士で行っていましたが、23年度から分院間でも実施されています。1月31日には香里病院が近畿大学医学部奈良病院を訪問する予定です。

耳鼻咽喉科が夕方診療を開始

従来からの内科、小児科、乳腺外科、婦人科、泌尿器外科に加え、耳鼻咽喉科が24年1月から夕方診療(毎週火曜日)を開始しています。

卒後臨床研修センター

二次救命処置の技術習得に向けた講習会開催

講習を受ける研修医たち



研修医を対象にしたAHA(アメリカ心臓協会)認定の「ACLS(二次救命処置)講習会」が、国際救命救急協会の協力を得て、附属滝井病院で開催されました。プロバイダーコースは10月8日(土)～9日(日)、同月11日(火)～12日(水)、11月12日(土)～13日(日)の計3日程で、いずれも2日間のスケジュールで実施され、それぞれ6名、5名、30名が、またインストラクターコースは10月10日(月)～12日(水)の3日間のスケジュールで行われ、5名がいずれも修了しました。

2コースとも過密なスケジュールでしたが、受講者は二次救命処置の技術習得のために熱心に取り組み、修了者には認定内科医申請時の資格要件の一つとなる修了証が授与されました。

インストラクターコースの修了者については今後開催する同講習会において、インストラクターとして協力を依頼する予定です。

看護師復職支援トレーニング実施

淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム

文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」として本学と大阪医科大学が取り組む「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」の一環として、枚方市在住の潜在看護師の職場復帰を支援する研修会が10月21日(金)と11月18日(金)の両日、いずれも附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで開催され、各11名が受講しました。シミュレータを使用しての実技トレーニングを主とした内容で、同病院看護部教育委員会の協力のもと、1人でも多くの方が参加できるように今年度は計2回、実施しました。

受講者は熱心に取り組んでおり「丁寧に教えてもらえて、実際に人形で手技を体験できて良かった」「講師の輝いている白衣姿を見て復職したいと思いが強くなった」といった感想がありました。



トレーニングに取り組む受講者の皆さん

附属看護専門学校

患者さんに安らぎを 第26回キャンドルサービス

12月16日(金)午後4時40分から附属滝井病院で、附属看護専門学校学生によるキャンドルサービスが行われました。このイベントは患者の皆さんに安らぎと希望を持っていただくとともに、看護する者の優しい気持ちと奉仕の精神を養うことが目的で、毎年クリスマス前に実施しています。この日は1～3年生229名が計12病棟の病室を訪問しました。

「きよしこの夜」を歌いながら病室を訪れる学生たち



病棟の照明を消し、学生が持つキャンドルの炎だけが灯る幻想的な雰囲気の中、学生が「きよしこの夜」を歌いながら病室を順に訪れ、患者さんに励ましの言葉を掛け、手づくりのクリスマスカードを手渡しました。小児科病棟では、カードを受け取った子どもたちが笑みを浮かべ、さらに母親が涙ぐむ場面も見られるなど、学生たちの演出が感動を呼んでいました。

推薦入学試験実施

附属看護専門学校の平成24年度推薦入学試験が11月19日(土)に実施されました。同26日(土)に合格発表が行われ、男子1名を含む36名が合格しました。

同窓会

寄稿

如是我聞

(財)加多乃会副会長 鶴田 一郎(44回生)

12月16日(金)に関西医科大学附属枚方病院(以下枚方病院と略す)に用事があって出かけた。同病院の2階に「如是我聞」との扁額が飾ってあった。前から気になっていて、一度案内の方にお聞きしたが要領が得ず、この言葉の意味することが理解できなかった。この言葉が枚方病院の職員や来院する患者さんやその他の方々に何を訴えているのか気になっていた。今回、自分なりに少なくとも同窓生の一人として、こういう意味にとってもいいのではないかと、その意味するところを自分なりに考えてここに披瀝し、大方の叱正を乞いたい。

如是我聞は文字通り是の如く我聞けり(=お釈迦さんから)このように私は聞いていました。裏を返せばその後続く言葉(お経の文句)の内容を信じ、絶対視する。論語も「子曰く」と孔子の言葉、聖書も「はっきり言うておく」と、キリストの言葉には付いている。本来、お経も釈迦の弟子が釈迦の教え、言葉を会議(仏典結集)を開いて妥当なものをお経として決めている。残念ながら枚方病院の扁額には「如是我聞」の内容がなく、何を信じ、絶対視するのか見当がつかない。それぞれ見る人が考えて行動をなささいということであろう。以下は同窓生の一人として「是」の内容を考えてみた内容である。

そもそも関西医科大学(以下関西医大と略す)の建学の理念は「慈仁心鏡」(学歌の「めぐみを心の鏡と成し」とのこと)であり、枚方病院も関西医大の附属病院であるからにはこの理念に沿った病院ということではなければならないと考える。それなら「慈仁心鏡」と「如是我聞」との関係は如何となる。「慈仁心鏡」の「慈」は仏教での慈悲の慈(慈しみ)で代表されるものであり(聖道門と浄土門ではその考え方、方法論は異なるが)つまるところ、大乘仏教であれば菩薩道(他人のために役に立ち、他人のために草木禽獣にいたるまで慈しみなさい)ということであろう。「仁」は儒教の徳目の一つで、孟子に言わせれば「夫子(孔子)の道は仁義のみ」であり、仁は愛であるが愛はめぐみの意味もある。愛といえばキリスト教では一応西暦千年でこの世が終わり、最後の審判が下されるところが

マリヤのおかげでこの世が続き、厳しい審判を下すキリスト教から愛の宗教のキリスト教に宗旨変えしたという。

仁の話に戻すが、墨家にいわすれば儒教の愛は「兼愛」でなく近親者等に対する愛であり、天下万民に対するものでなく不十分である。とのそしりを免れないとの批判がある。それはそれとして仁は相手も自分と同じ人として接しなさいとのことであろう。以上、慈仁心鏡とは慈しみを持って、自分と同じように相手の人を大切に思い、愛情を持って人に接する心を鏡に映し、できていなければ矯正しなさいということであろう。そして、如是我聞、このように私は聞いていますよ(=このようにしなさい)は、私はこのように建学の理念を聞いていますよ。あるいは先人の努力、言行がこのようであったと聞いていますよとなるのであろう。日進月歩の医療界、あるいは日々変化する世の中に追いつき追い越していくために、縦軸に歴史(先人の努力の結晶)と横軸に世界を見据えて日々新たに進みなさい。そして、温故知新として新たなものを生み出し、時代に遅れず、先取りするよう改革をくり返しなさい。と、あの扁額が語っているように思われた。

おりしも『関西医科大学広報』Vol.15に「附属枚方病院が西日本1位の評価を得ました」との記事が掲載されていた。関西医大創立八十有余年の歴史の中で幾多の危機に見舞われながらも是を乗り越え(微力ながらも同窓会も努力した)今日に至っている姿をみるに、温故知新の下、さらにいっそうの発展を願ってやまない。同窓会・加多乃会も微力ながら応援していきたいと考えている。

以上、如是我聞の是は関西医大の理念の下に先人の成果を利用していただき、温故知新をその武器として、日々新たに努力しなさいと扁額が語っているように思えた。



「如是我聞」の扁額

研究助成のご案内

財団法人加多乃会・関西医科大学同窓会では、学術・研究振興、教育・研修などを助成する下記の制度があります。平成24年度の募集は2月初旬に予定しています。奮ってご応募ください。

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 研究助成「加多乃賞」 | 1) 海外留学助成 |
| 2. 「佐々木千枝子(ささきちえこ)賞」 | 2) 海外出張助成 |
| 3. 「森本園子(もりもとそのこ)賞」 | 7. 「塩崎安子賞」 |
| 1) 森本賞 | 8. 「和田喜代子(わだきよこ)賞」 |
| 2) 森本医療功労賞 | 1) 和田喜代子賞 |
| 4. 「北西壽子(きたにしとしこ)賞」 | 2) 和田喜代子優秀業績賞(論文又は著書) |
| 5. 関西医科大学「櫻根啓子(さくらねひろこ)賞」 | 3) 和田喜代子奨励賞 |
| 1) 研究論文 | 9. 「丹家雛子(たんけひなこ)賞」 |
| 2) 国外学会発表 | 1) 丹家雛子賞 |
| 3) 国外臨床実習 | 2) 丹家雛子医療奨励賞 |
| 6. 「藤原登美子(ふじわらとみこ)賞」 | 3) 丹家雛子交付奨学金 |

メディア情報

教職員メディア情報

テレビ出演、または新聞・雑誌に記事を掲載された教職員を紹介します。

(平成23年11月1日～12月31日 ※判明分のみ)

今村洋二病院長 (附属枚方病院)	産経新聞 11月3日(木)	今村病院長が座長を務めた、静脈の構造や下肢静脈脈瘤の原因と治療法などに関する市民医療セミナーの特集記事が掲載されました。
---------------------	------------------	--



英語版ホームページは本学Webサイトトップページのこちらのボタンからお入りください。

英語版ホームページをアップしました

国際交流センターの設置に伴い、本学Webサイト内に英語版ホームページを新たに設けました。現在、準備中のページもありますが、随時、更新していく予定です。

この英語版を含め、ホームページ全般に関する皆様からのご意見をお待ちしております。

情報ご連絡先

総務部広報課 電話：06-6993-9672(内線 2138)

e-mail：kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

お知らせ

「関西医科大学 広報」年4回発行
ご意見をお待ちしております。

「広報」は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回、季刊号として発行しています。ご意見などありましたら、広報課までご連絡をよろしくお願い致します。

送付先変更の場合はお知らせください

「広報」の送付先の変更が生じた方は、官製はがき、ファックス、E-mailにて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、広報課までお知らせください。

観劇会とケーキバイキング開催
レクリエーション実行委員会行事

11月26日(土)に劇団四季京都劇場において、レクリエーション実行委員会企画による、劇団四季のマンマ・ミーア観劇会が行われました。当日は、天候にも恵まれ35名の参加者が集い、熱気と感動に溢れたステージの余韻は終演後も劇場中に満ちわたっていました。

また、12月10日(土)午後3時からは「ケーキバイキング」の企画が、セントレジスホテル大阪で開催されました。当日は厳しく冷え込む中、参加した54名は、丹精込めて作られた種々のメニューを味わいながら歓談に花を咲かせ、寒さを忘れさせる至福のひとつを過ごしました。

編集後記

東日本大震災発生から間もなく一年を迎えようとしています。被災者のやり場のない怒りや不安は依然続き、まだ先が見えないという方もたくさんいると思います。今年は被災した方の未来が少しでも明るくなる一年であることを願います。

本学の夢が詰まった新学舎は、竣工まであと一年です。「希望」を持って働けることに感謝し、教職員一丸となって実りある年にしましょう。

仕事始めの賀詞交換会において、山下理事長・学長の年頭所感是有言実行、今年の干支の昇り龍のとおり、希望に満ちていました。「一年の計は元旦にあり」。職員それぞれが自身の使命を認識し、明日からの仕事への意欲がさらに向上したことと思います。詳細は本誌の冒頭の記事をご覧ください。

今年もよろしくお願いいたします。

(山)

関西医科大学広報 Vol.16

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

平成24年1月15日発行